

第3回環境やまがた大賞受賞

贈呈式は、平成13年10月14日、「環境やまがた県民フォーラム2001」(於:山形ビッグウイング)において行われました。

受賞団体の概要

地球環境保全活動分野

長井市立豊田小学校 (校長 白井 二男)

＝ 省エネ共和国運動を通して地球にやさしいまちづくりを学校から考える ＝

今日の生活の基底になっている電気エネルギー。豊田小では、それまで地域の自然をフィールドにした環境学習に取り組んできましたが、これを土台に、平成12年度からは、電気エネルギーを考える「省エネ共和国」の運動を通じた地球環境問題の理解と環境保護の実践活動に取り組んでいます。

[活動の内容]

平成11年度:地域をフィールドにしたふるさと学習、実体験をとおして、ふるさとを愛する心と環境考える
土壌をつくる活動

- ・ふるさとの心を知る体験作業(米作り、芋作り)
- ・環境の芽を育てる(白川水質調査、ケナフで紙作り、レインボープラン学習)
- ・出会いをつくる(ワールドスクールネットワーク環境特派員との交流など)

平成12年度:ふるさと学習を土台にした環境学習の体系化、実践

- ・身近な暮らしから環境問題を考える芽を育てる活動
- ・人体発電実験、省エネナビ設置(モニター家庭含む)による日常的な点検運動、
- ・事前事後の意識変化の確認アンケート(モニター家庭含む)
- ・家庭、地域との連携の中で環境を考える活動
- ・モニター家庭(12家庭)との共同取り組み、省エネだより等発行による情報提供、
- ・PTAとしての取り組み(エコチャレンジやまがたへの参加等)、
- ・地域としての取り組み(10月、地球温暖化講演会)
- ・発表などを通じた学習交流活動

平成13年度:児童の自主的な取り組み体制の支援と交流

- ・児童会が自主的に設置した環境委員会の活動
- ・省エネ活動の点検、たよりの発行、省エネ集会、アルミ缶リサイクル運動
- ・市内他校とのインターネット等による活動交流
- ・節電をテーマに、学校、家庭及び地域との連携の中で取り組み、日常的な活動を通して、一人ひとりが地球環境の保全のために貢献できる意識をもたせることができました。

地域環境保全活動分野

特定非営利活動法人庄内海浜美化ボランティア（代表理事 守屋元志）

＝ 環境NPOとしての庄内海岸の美化活動 ＝

県内初の環境NPO(特定非営利活動法人)として、庄内海浜一円の海・港・釣り場等の美化活動を行っています。

【活動内容】

- ・昭和60年からボランティア組織として庄内海岸の美化活動を行っていたが、平成11年11月、県内9番目のNPO(特定非営利活動法人)となった。
- ・原則として毎月第2、第4水曜日に酒田港の清掃活動をしており、都合の悪い会員は自発的に個人で実施している。
- ・啓発及び美化活動の一環として、「ポートフラワー運動」と称して、釣り人がゴミを捨てている場所に花壇を設置したり、また清掃活動時の広報テープによるゴミ捨て防止の呼びかけ、イベント時の広報誌配布などの啓発も行っている。
- ・他のボランティア団体と連携した活動や、酒田港の環境美化推進組織である「酒田港クリーンアップ推進協議会」の主力団体としても活躍している。

環境技術研究開発分野

有限会社森環境技術研究所（代表取締役 森 雅人）

＝ ヘドロ・建設汚泥の再利用が可能な技術の開発 ＝

固化処理が難しいヘドロと建設汚泥の再生利用技術について、「ボンテラン工法」を開発、日本混相流学会と共同で研究開発を行っています。(会社設立平成12年8月)

【活動内容】

- ・従来、建設工事に伴って発生する掘削汚泥や微細な泥状土の建設汚泥の大部分は、産業廃棄物として中間処理施設で脱水処理を行うか、直接、最終処分場へ搬送するしかなかったが、建設汚泥やヘドロに繊維質の古紙破砕物と高分子系改良剤を添加して、盛土材に適した材料にする技術(ボンテラン工法)を開発しました。
- ・高分子系改良剤や古紙を添加することで、土粒子のまわりの自由水が繊維質物質に吸収されるとともに、繊維質物質が土粒子を吸着し架橋するため、脱水したような固化した泥土になります。簡易な施設で短時間に処理することができます。
- ・森環境技術研究所の研究成果を基礎に、平成13年1月には産学連携の「日本混相流学会混相流技術リエゾン専門委員会ボンテラン工法研究会」が設立され、山形県土木部や東北地方整備局、東日本旅客鉄道(株)等で採用の実績がある。
- ・「ボンテラン工法」は大掛かりなプラントを必要としないため、建設現場における大幅なコスト縮減が期待できる。
- ・処理土壌は、一般園芸用土と比べ保水能力が約2倍高いという研究成果があり、法面植栽や屋上緑化など建設用盛土以外での利用も期待できる。